サツキの育て方(1)　―年間管理―

サツキは，関東以西の低い山地の岩場や河岸に自生し，寒さに強く，多くの品種が作り出されています。その数は2000品種にものぼり，花柄，花形，花色が豊富で，盆栽，庭園樹，生垣用と幅広く利用されています。

植え替え

鉢植え　２～３年に１回行います。用土は，鹿沼土単用か，それに小さくきざんだ水苔を１割混合したものが適当です。古い根鉢を2/3の大きさに切りつめ，表面を軽くほぐし，株元を少し盛り上げて植え込みます。植え付け後は十分灌水し，２～３日間は遮光下で乾かないよう管理します。

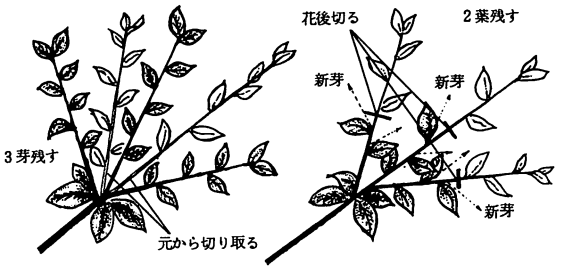
庭植え　庭土に腐葉土を約３割混ぜたものを用土とします。植え付け後は乾きすぎないよう注意します。

剪　定　（図１）

花が終わったらすぐに行い，６月末までに済ませます。樹形を考えながら，こみすぎた枝を間引きます（各枝に均一に日が当たるようにする）。また，新芽を多くし，花付きを良くするために，残した枝の芯止めを行います。

さし木（図２，３）

採取したさし穂は，調整後約30分水に浸してからさします。さす時は１本ずつさし床に穴を開け，ていねいに扱います。さし穂の間隔は約１cmとします。さし木後約２週間は遮光下で乾かさないよう注意し，その後徐々に日に慣らして４週目からは直射日光下で管理します。さし木後約２ケ月で鉢上げ可能となりますが，真夏と真冬は避けて行います。



枝の間引き　　芯止め

図１　剪定の要領

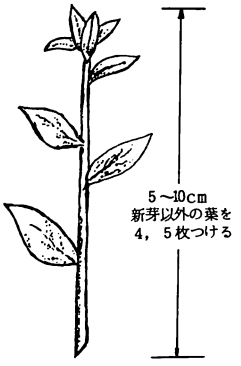


図２　さし穂の調整

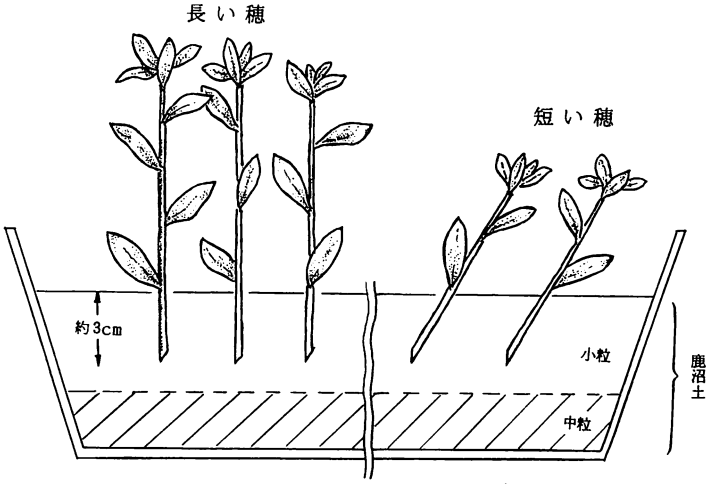
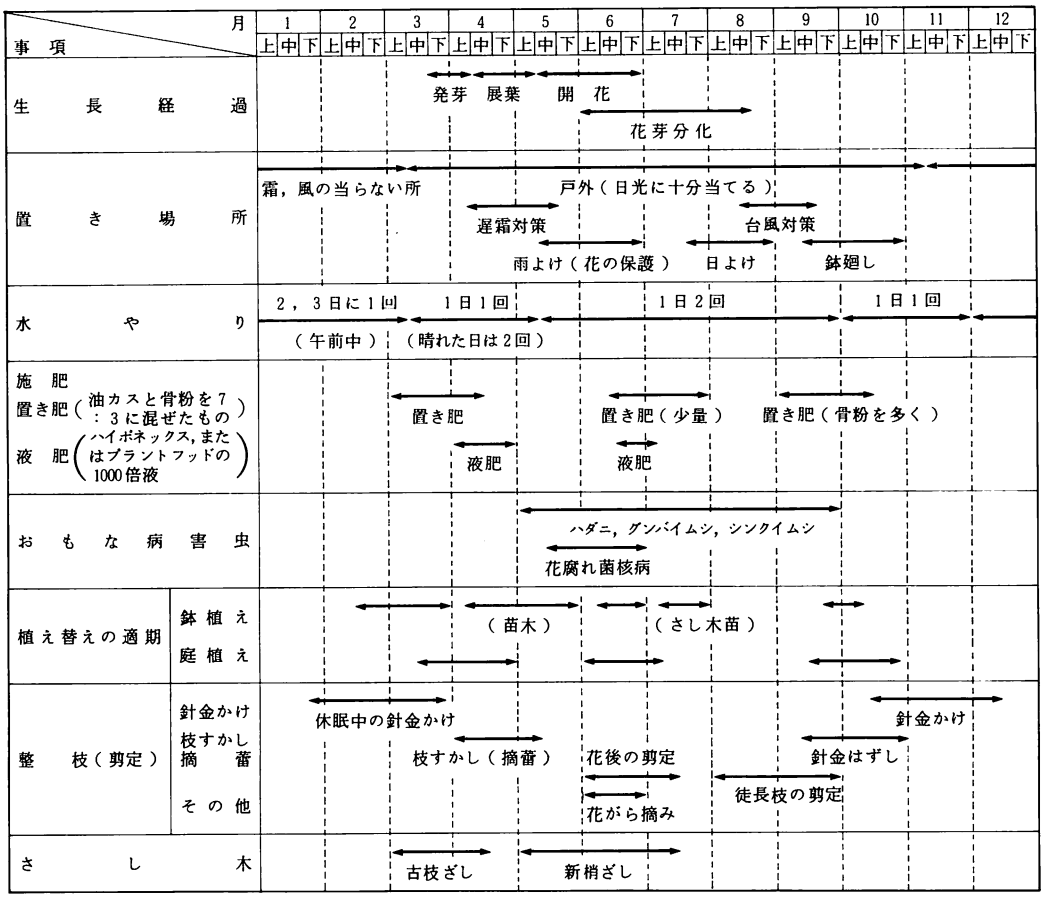


図3　さし木の要領

広島市植物公園

サツキの育て方(2)　―栽培カレンダー―

サツキの栽培カレンダー



病害虫の防除

ハダニ，グンバイムシ，シンクイムシについては，登録がある殺虫剤，殺ダニ剤を使用して防除します。複数の薬剤をローテーションさせて使うと効果的です。散布は5～9月の間，花期を除いて月2回の割合で行います。

花腐れ菌核病については、登録がある殺菌剤をつぼみが大きくなり始めた頃から開花期にかけて散布します。また、今後の発生を抑えるために、花がら摘みをこまめに行います。